

<p>第一課 四月四日 「あなたの御言葉は、わたしの道の光／わたしの歩みを照らす灯」 詩編 一一九ノ一〇五 新共同訳</p>	<p>第八課 五月二三日 「初めに言(ことば)があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は初めに神と共にあった。万物は言によつて成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった」 ヨハネ 一ノ一〜四 新共同訳</p>
<p>第二課 四月一日 「このようなわけで、わたしたちは絶えず神に感謝しています。なぜなら、わたしたちから神の言葉を聞いたとき、あなたがたは、それを人の言葉としてではなく、神の言葉として受け入れたからです。事実、それは神の言葉であり、また、信じているあなたがたの中に現に働いているものです」 「テサロニケ 二ノ一三 新共同訳</p>	<p>第九課 五月三〇日 「天は神の栄光を物語り／大空は御手の業を示す」 詩編 一九ノ二 新共同訳</p>
<p>第三課 四月一八日 「イエスは答えになった。『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。』」 マタイ 四ノ四 新共同訳</p>	<p>第一〇課 六月六日 「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である……。」 出エジプト記 二〇ノ二 新共同訳 申命記 五ノ六も参照</p>
<p>第四課 四月二五日 「そして、教えと証しの書についてはなおのこと、『このような言葉にまじないの力はない』と言うであろう」 イザヤ 八ノ二〇 新共同訳</p>	<p>第一課 六月一三日 「彼は続けた。『日が暮れ、夜の明けること二千三百回に及んで、聖所はあるべき状態に戻る』」 ダニエル 八ノ一四 新共同訳</p>
<p>第五課 五月二日 「というのは、神の言葉は生きており、力を發揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができるからです」 ヘブライ 四ノ一二 新共同訳</p>	<p>第一二課 六月二〇日 「また、わたしたちの主の忍耐深さを、救いと考えなさい。それは、わたしたちの愛する兄弟パウロが、神から授かった知恵に基づいて、あなたがたに書き送ったことでもあります。彼は、どの手紙の中でもこのことについて述べています。その手紙には難しく理解しにくい箇所があつて、無学な人や心の定まらない人は、それを聖書のほかの部分と同様に曲解し、自分の滅びを招いています」 コリント 三ノ一五、一六 新共同訳</p>
<p>第六課 五月九日 「信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神が存在しておられること、また、神は御自分を求める者たちに報いてくださる方であることを、信じていなければならぬからです」 ヘブライ 一一ノ六 新共同訳</p>	<p>第一三課 六月二七日 「御言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけで終わる者になつてはいけません」 ヤコブ 一ノ一二 新共同訳</p>
<p>第七課 五月一六日 「この律法の書を取り、あなたたちの神、主の契約の箱の傍らに置き、あなたに対する証言としてそこにあるようにしなさい……。」 申命記 三二ノ二六 新共同訳</p>	

「SDA教団伝道局ホームページ(安息日学校部)」 『 <http://adventist.jp/evangelism/ss> 』

⇒ 聖書研究ガイド ⇒暗唱聖句表から 口語訳／新共同訳をダウンロード